

# 地理歴史(日本史)〔問題〕

(100点・80分)

## 注 意 事 項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見たり、裏返したりしてはいけません。
2. 出題科目は、世界史・日本史です。どちらか1科目を選択しなさい。
3. この問題冊子は地理歴史(日本史)です。全部で36ページあり、解答用紙は共通で1枚(両面)です。

試験中に問題冊子・解答用紙の印刷不鮮明、ページの落丁などに気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせなさい。

4. 試験開始後、ただちに解答用紙の所定の記入欄に、氏名・受験番号・誕生月日をそれぞれ正しく記入し、さらに受験番号・誕生月日をその下のマーク欄にマークしなさい。また、選択科目欄には、選択する科目をマークしなさい。マークと異なる科目を解答したり、両科目を解答した場合は判定対象となりません。
5. 受験番号・誕生月日が正しくマークされていない場合は、採点できないことがあります。
6. 解答は、解答用紙の解答欄に各設問で指示された方法で記入しなさい。

この問題冊子(日本史)の解答番号は51～100です。

例えば、

70
----

と表示のある問いに対して②と解答する場合は、次の(例)のように解答番号70の解答欄の②にマークしなさい。

(例)

解答番号	解 答 欄
70	① ● ③ ④ . . . . .

7. 問題冊子の余白等は、下書きなどに適宜利用してよいが、各設問で指示された解答は、必ず解答用紙の解答欄に指示された方法で記入しなさい。
8. 試験終了後、提出は解答用紙のみとし、問題冊子は持ち帰りなさい。

# 日本史

**第1問** 蝦夷・アイヌの歴史について記した文章A～Cを読み、下の問い（問1～9）の答えを解答欄に記入せよ。

A 日本列島には、原始時代以来、何度かにわたって大陸から人が移住してきた。このうち弥生文化系の人々の中からヤマト政権が生まれ、畿内から西日本一帯を勢力下に置いた。それに対し、より早くから列島に定住していた縄文系の文化を受け継いだ人々は、必然的に東日本、特に東北・北海道を主要な居住地としていく。後者の系統から、後のアイヌが生まれたと考えられる。ただし、縄文人と弥生人には通婚の形跡が確認される点には注意を要する。

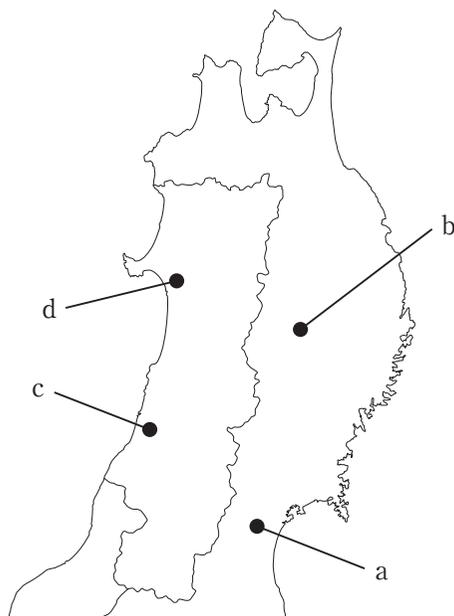
7世紀頃になると、東北地方から北海道西部にかけて、擦文文化が発達した。飛鳥時代末期から奈良時代になると、古代国家は、擦文文化人を含む東方・北方の人々を蝦夷と呼んで異民族とみなし、征服・服属対象としていった。その拠点となったのが、<sup>a</sup>陸奥多賀城や出羽秋田城であり、蝦夷討伐のために鎮守府を設置した。

古代国家に本州での居住地を圧迫された擦文文化人は、北海道全域に勢力を拡大した。また8世紀以降、蝦夷は朝廷の勢力拡大に抵抗する動きを本格化させた。789年に挙兵し、802年に坂上田村麻呂に降伏した ア に代表される。

<sup>b</sup>平安時代後期の1051年、朝廷に服属していた陸奥奥六郡の有力者が挙兵し、次いで1083年にも出羽で紛争が生じたが、いずれも陸奥守・鎮守府将軍に任官した河内源氏によって滅ぼされた。

問1 下線部②に関連して、多賀城と秋田城の場所を示した概略地図上の位置（a～d）の組合せとして正しいものを、下の①～④のうちから一つ選べ。

51



（東北地方概略地図）

- |           |         |           |         |
|-----------|---------|-----------|---------|
| ① 多賀城 — a | 秋田城 — c | ② 多賀城 — a | 秋田城 — d |
| ③ 多賀城 — b | 秋田城 — c | ④ 多賀城 — b | 秋田城 — d |

問2 ア に入る人名として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

52

- |        |        |         |         |
|--------|--------|---------|---------|
| ① 紀古佐美 | ② 阿弓流為 | ③ 伊治咎麻呂 | ④ 阿倍比羅夫 |
|--------|--------|---------|---------|

問3 下線部⑤に関連して、1051年に陸奥で挙兵した氏族名Xと、それを鎮圧した河内源氏の棟梁の名前Yの組合せとして正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 

53
----

- ① X — 安倍氏      Y — 源頼義
- ② X — 安倍氏      Y — 源義家
- ③ X — 清原氏      Y — 源頼義
- ④ X — 清原氏      Y — 源義家

B 平安時代の半ばから鎌倉幕府成立の過程で、日本側から蝦夷と呼ばれた人々は、交易を主体とするアイヌ文化を確立させつつも、千島列島や樺太（サハリン）へと勢力を延ばした。平安後期、東北地方に勢力を広げた<sup>㉔</sup>奥州藤原氏は、青森県域を含む本州北端全域を支配下に組み込んで陸奥・出羽両国を支配下に置きつつ、蝦夷ヶ島（北海道）に住む蝦夷・アイヌとの交易も財政基盤とした。

鎌倉時代までのアイヌは、樺太を拠点に、中国大陸の黒竜江（アムール川）河口域に住むギリヤークを攻撃した。ギリヤークは朝貢していた中国元王朝に支援を求め、アイヌは元王朝と交戦を繰り返している。14世紀に元が滅び、中国で王朝交替が起これると、アイヌは中国に朝貢し、関係を改善した。

本州では、安藤（安東）氏が鎌倉～室町期に、イを拠点にアイヌとの交易で栄えた。15世紀に入ると、本州から和人と呼ばれる日本民族系の人々が蝦夷ヶ島に移住し、<sup>たて</sup>館を構えるようになった。もっとも和人の勢力圏は蝦夷ヶ島南端（道南）のごく一部に過ぎず、軍事力ではアイヌ側が優位であった。

15世紀末、安藤氏が本拠を追われて道南に逃れ、戦国期には出羽へ移った。安藤氏不在となった道南では、蠣崎氏がアイヌや他の和人との争いに勝ち抜き、主君であった安藤氏に道南の支配権を認めさせた。

<sup>㉔</sup>蠣崎氏の本拠勝山館からは、アイヌの生活遺品が出土した他、和人とアイヌの墓地在同じ箇所に並んだ形で発見された。また道南東部の志苔館<sup>しのりだて</sup>からは、越前焼や珠洲焼の大甕から大量の渡来銭が出土しており、この時期の道南の実態を考える大きな手がかりとなっている。

問4 下線部<sup>㉔</sup>に関連して、奥州藤原氏について説明した文章として誤っているものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 54

- ① 平泉に柳之御所を築き、本拠とした。
- ② 藤原清衡が建立した中尊寺金色堂には、歴代の遺体が葬られている。
- ③ 藤原基衡が建立した富貴寺大堂は、浄土庭園で知られる。
- ④ 源義経を匿ったことがきっかけとなり、源頼朝に滅ぼされた。

問5  に入る地名として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 大湊      ② 粟津      ③ 六浦津      ④ 十三湊

問6 下線部④の記述から読み取ることのできる内容を記した文章X・Yの正誤の組合せとして正しいものを、下の①～④のうちから一つ選べ。

X：勝山館の発掘成果からは、蠣崎氏がアイヌと共生していた可能性を読み取れる。

Y：志苔館の発掘成果からは、日本海を通じて交易が展開されていた様子を読み取れる。

- ① X — 正      Y — 正      ② X — 正      Y — 誤  
③ X — 誤      Y — 正      ④ X — 誤      Y — 誤

C 蠣崎氏は全国を統一した豊臣秀吉に臣従を表明し、蝦夷地（蝦夷ヶ島、北海道）、実質的には道南における権益を安堵されて、その後苗字を松前氏に改めた。江戸幕府が成立すると、最終的に松前藩一万石の大名という地位を確立させることに成功する。

松前藩は、家臣への恩賞として、アイヌとの交易権を活用しており、徐々に和人とアイヌの居住地を区別するようになっていった。一方のアイヌは、<sup>e</sup>朝貢関係を結んでいた中国の王朝が滅亡したことで後ろ盾を失った。中国大陸からの輸入物も減少し、松前藩に対し、交易交渉で不利な立場に立たされることが増えていったのである。

1669年にアイヌの指導者 **ウ** が蜂起して敗北すると、アイヌは松前藩への服属を余儀なくされていく。18世紀になると、新たな交易の仕組みとして **エ** が始まり、アイヌの待遇はますます悪いものとなった。さらにロシアの南下やロシア船来航への危機感が強まると、<sup>f</sup>幕府は千島列島を皮切りに、樺太（サハリン）・蝦夷地沿岸の測量を開始し、アイヌの住む蝦夷地を日本領と主張するようになった。

さらに幕府とロシアの間で結ばれた日魯（日露）和親条約で、蝦夷地は国際的に日本領と定められた。明治維新後にはフロンティアとして多くの開拓民が移住を始め、管理官庁として開拓使が置かれた。江戸時代、大名領ごとに連帯感がばらばらであった人々に、「日本人」「日本国民」というアイデンティティを共有させようと尽力していた明治政府は、アイヌもその対象に含めており、開拓使は蝦夷地の名称を北海道と改めるとともに、アイヌの同化政策を進めた。

開拓使廃止後も、明治政府はアイヌの同化を進める法律を定め、太平洋戦争後も実態はともかく、法律としては残り続けた。<sup>g</sup>1997年、新たな法律が制定され、戦前の旧法は廃止された。ただこの新法にも課題は多く、2019年に現行法へ移行した。

問7 下線部㉔の中国の王朝について説明した文章として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 57

- ① 応永年間に、対馬に攻め寄せた。
- ② 海禁政策を取り、貿易統制を行った。
- ③ 豊臣秀吉の朝鮮出兵に対し、李舜臣が率いる援軍を朝鮮に派遣した。
- ④ 江戸幕府との貿易では、幕府によって長崎の唐人屋敷を居留地と定められた。

問8 ウに入る人名と、エに入る制度名の組合せとして正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 58

- ① ウーコシャマイン      エー場所請負制度
- ② ウーコシャマイン      エー商場知行制
- ③ ウーシャクシャイン      エー場所請負制度
- ④ ウーシャクシャイン      エー商場知行制

問9 下線部㉕に関連して、はじめて幕命で千島列島の探査を行った人名Xと、下線部㉖の法律名Yの組合せとして正しいものを、次の①～⑥のうちから一つ選べ。 59

- ① Xー伊能忠敬      Yーアイヌ文化振興法
- ② Xー伊能忠敬      Yーアイヌ人保護法
- ③ Xー間宮林蔵      Yーアイヌ文化振興法
- ④ Xー間宮林蔵      Yーアイヌ人保護法
- ⑤ Xー最上徳内      Yーアイヌ文化振興法
- ⑥ Xー最上徳内      Yーアイヌ人保護法

**第2問** 倭の五王に関する史料を取り上げた文章Aと、天智天皇の政治について記した文章Bを読み、下の問い（問1～8）の答えを解答欄に記入せよ。

A 5世紀、中国南朝の宋に、倭国の王五人（倭の五王）が相次いで朝貢しており、この頃から歴代天皇との関係が明らかになってくる。以下は倭の五王3人目の済から、最後の武までの朝貢の記録と、武が宋の順帝に送った上表文の一部を、中国の歴史書から抜粋したものである。

〔史料〕

(元嘉<sup>(443)</sup>)二十年、倭国王の済、使を遣わして奉獻す。復た以って安東將軍、倭国王と為す。(元嘉<sup>(451)</sup>)二十八年、使持節、都督倭・新羅・任那・加羅・秦韓(辰韓)・慕韓(馬韓)六国諸軍事(注1)を加え、安東將軍は故<sup>もと</sup>の如し、(略)済死す。世子の興、使を遣わして貢獻せしむ。世祖(孝武帝)の大明六年<sup>(462)</sup>、詔して曰く、「倭王世子の興、(略)宜<sup>よろ</sup>しく爵号を授くべく、安東將軍、倭国王とすべし」と。

興死して、弟の武立つ。自ら使持節、都督倭・百濟・新羅・任那・加羅・秦韓・慕韓七国諸軍事、安東大將軍、倭国王と称す。

順帝<sup>(478)</sup>の昇明二年、(武は)使を遣わして上表せしめて曰く、「封国は偏遠にして藩を外に作す。(略)累葉朝宗すること(注2)、歳ごとに愆<sup>あやま</sup>たず。臣は下愚なりと雖も、忝<sup>かたじけな</sup>く先緒<sup>せんちよ</sup>(注3)を胤<sup>つ</sup>ぎ、統<sup>す</sup>ぶる所を驅率<sup>くそつ</sup>して、天極<sup>てんきよく</sup>に帰崇<sup>きすう</sup>す(注4)。道は百濟<sup>よぎ</sup>を経り、船舫<sup>せんぼう</sup>を装治<sup>しか</sup>す。而るに句驪(高句麗)は無道にして、(略)路を進まんと曰うと雖も、或いは通じ、或いは不らず。臣の亡<sup>しか</sup>孝<sup>ぼうこう</sup>(注5)済、実に寇讎<sup>こうしゆう</sup>の天路<sup>てんろ</sup>を壅塞<sup>よくそく</sup>すること(注6)を忿<sup>いか</sup>り、控弦<sup>こうげん</sup>(注7)百万、義声<sup>ぎせい</sup>をあげ感激して、方<sup>まさ</sup>に大挙<sup>たいきよ</sup>せんと欲せしも、奄<sup>にわ</sup>かに父兄<sup>ふけい</sup>を喪<sup>な</sup>い、(略)居<sup>り</sup>りて諒<sup>りよう</sup>闇<sup>あん</sup>(注8)に在れば、兵甲<sup>へいけつ</sup>を動かさず。(略)今に至りて、甲<sup>けつ</sup>を練<sup>れん</sup>り兵<sup>へい</sup>を治<sup>ち</sup>め、父兄<sup>ふけい</sup>の志<sup>し</sup>を申<sup>ま</sup>べんと欲<sup>ほ</sup>す。(略)」と。

詔して、武<sup>たけ</sup>を使持節、都督倭・新羅・任那・加羅・秦韓・慕韓六国諸軍事、安東大將軍、倭王<sup>やまと</sup>に除<sup>のぞ</sup>す(注9)。

(『宋書』倭国伝)

(注1) 使持節，都督(地名)諸軍事：地方の軍政の最高長官を指す。

(注2) 累葉朝宗すること：代々中国に朝貢することは。

(注3) 先緒：先祖の偉業。

(注4) 天極に帰崇す：中国皇帝をあがめ従う。

(注5) 亡孝：亡き父。

(注6) 天路を壅塞すること：中国への道を塞ぐこと。

(注7) 控弦：弓矢を持った兵。続く百万は誇張表現。

(注8) 諒闇：皇帝や天皇が(主に)父母の喪に服すること。

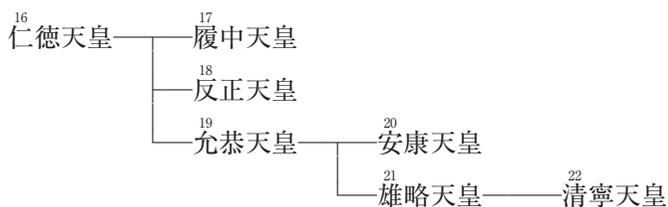
(注9) 除す：叙す。任命する。

問1 この史料から読み取ることのできる内容を記した文章として誤っているものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 

60
----

- ① 少なくとも済と武は、朝鮮半島の一部の国々への優位権を、中国から認められている。
- ② 武は倭国王を自称し、その後、宋の皇帝から冊封を受けた。
- ③ 武は、倭国の使者がしばしば高句麗の妨害を受け、中国皇帝への挨拶に支障をきたしていると主張している。
- ④ 武の考えていた朝鮮半島への出兵計画は、父の反対で滞っていたが、父と兄が相次いで死去した結果、実現しそうだと述べている。

問2 以下の系図は、『日本書紀』から作成した歴代天皇の関係系図である（算用数字は天皇の歴代を示す）。〔史料〕に出てくる倭王済と興は、どの天皇にあたりと考えられているか。その組合せとしてもっとも適切と思われるものを、下の①～⑥のうちから一つ選べ。 61



- ① 済 — 仁徳天皇      興 — 履中天皇
- ② 済 — 仁徳天皇      興 — 反正天皇
- ③ 済 — 允恭天皇      興 — 安康天皇
- ④ 済 — 允恭天皇      興 — 雄略天皇
- ⑤ 済 — 安康天皇      興 — 雄略天皇
- ⑥ 済 — 安康天皇      興 — 清寧天皇

B 6世紀に台頭した<sup>a</sup>蘇我氏は、<sup>b</sup>推古天皇のもとで厩戸王と協調して政治改革を推し進めた。しかしながら、厩戸王と推古天皇が死去した620年代になると、蘇我氏も徐々に統制力を失っていった。一方、中国では隋が滅亡して唐が統一王朝を樹立した上、朝鮮半島への軍事侵攻を開始した。倭国への侵攻もありうると危機感を強めた蘇我氏は、有力な大王（天皇）候補であった厩戸王の子を滅ぼし、自身を中心とする国防体制強化を図った。

蘇我氏の強大化を<sup>きぐ</sup>危惧した中大兄皇子は、蘇我氏本宗家の排除を決意し、645年に蘇我氏父子を滅ぼした。しかし自身は大王の位にはつかず、母方の叔父孝徳天皇が即位した。<sup>c</sup>孝徳天皇のもとで、「改新の詔」を中心とした様々な政治改革が進められた。

孝徳天皇は間もなく死去し、中大兄皇子の生母が再度大王の位に復帰した。この時期、朝鮮半島で新羅の勢力が拡大しており、ヤマト政権（倭国）は、古くからの同盟国である百済に加え、高句麗とも手を結んで新羅を包囲する態勢を整えた。しかし窮地に陥った新羅は、逆に唐に朝貢して臣下の礼を取ることで、朝鮮半島統一に向けて動き出し、百済が滅ぼされてしまう。

百済の王族を擁立し、倭国優位の関係で百済の復興を果たそうと考えた中大兄皇子は、国内の豪族を動員して朝鮮半島に出兵したが、<sup>d</sup>663年、白村江の戦いで新羅・唐連合軍に大敗した。新羅は668年に高句麗も滅ぼし、ついに朝鮮半島に統一国家が出現したのである。

<sup>e</sup>様々な施策を進めた上で、中大兄皇子がようやく即位し、天智天皇となったのは668年、新羅による朝鮮統一直前のことであった。その過程で天智天皇が進めたのは、国防を意識した中央集権化であり、かつて滅ぼした蘇我氏と目指すところは一致していたのである。

問3 下線部㉑の蘇我氏について説明した文章として誤っているものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 62

- ① 4代にわたって大臣の地位を独占した。
- ② 物部氏との争いに勝利した。
- ③ 百済大寺を建立した。
- ④ 本宗家は、蘇我入鹿の代に滅亡した。

問4 下線部㉒に関連して、推古朝を中心とする時代に栄えた飛鳥文化について記した文章X・Yの正誤の組合せとして正しいものを、下の①～④のうちから一つ選べ。 63

X：法隆寺金堂壁画に、インド文化の影響を見て取れる。

Y：中国の僧侶観勒が、暦法を伝えた。

- ① X — 正      Y — 正                      ② X — 正      Y — 誤
- ③ X — 誤      Y — 正                      ④ X — 誤      Y — 誤

問5 下線部㉓に関連して、孝徳天皇・中大兄皇子の政権で、左大臣，右大臣，国博士のいずれかに任じられた人物として誤っているものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 64

- ① 中臣鎌足                      ② 蘇我倉山田石川麻呂
- ③ 旻                              ④ 高向玄理

問6 下線部㉓に関連して、孝徳天皇のもとで行われた政策に関する説明文として誤っているものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 65

- ① この時出された「改新の詔」は、奈良時代に文章表現などに手が加えられたものが、現在に伝わっている。
- ② 新たな広域行政区画が設置され、「郡」と命名されたことが、平安京出土木簡から明らかになった。
- ③ 皇族・豪族の私有地・私有民を廃止し、公地公民制を目指す方向が示された。
- ④ 都を飛鳥から難波に移した。

問7 下線部㉔の白村江の戦い後、国防のために新たに築かれた防御施設の名称として誤っているものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 66

- ① 水城      ② 丸都城      ③ 基肆城      ④ 大野城

問8 下線部㉕に関連して、中大兄皇子が生母である大王の死後、即位前（称制期）に行った政策として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。  
67

- ① 近江大津宮への遷都      ② 難波宮への遷都
- ③ 庚午年籍の作成      ④ 庚寅年籍の作成

**第3問** 中世における災害と飢饉について記した文章A・Bを読み、下の問い（問1～8）の答えを解答欄に記入せよ。

A 中世は気候変動が激しく、特に鎌倉幕府成立前後は地球規模の寒冷化が指摘されている。1181年に始まる<sup>㉑</sup>養和の大飢饉は、政治情勢に大きな影響を及ぼし、治承・寿永の内乱の転換点となった。

1231年には<sup>㉒</sup>寛喜の大飢饉が起き、3代執権北条泰時が武家としてはじめての法令集である  を制定する要因になった。

1258年に始まった正嘉の大飢饉は、長雨・冷夏と大規模な台風を原因とし、数年に及んだ。1257年の正嘉地震と合わせ、人々の混乱に拍車をかけた。天災を為政者の不徳の結果とみなす前近代の考えのもと、日蓮は『立正安国論』を執権引退後もなお幕府の実権を掌握していた  に提出している。

問1 下線部<sup>㉑</sup>に関連して、養和の大飢饉後の出来事に関して述べた次の文章Ⅰ～Ⅲについて、古いものから年代順に正しく配列したものを、下の①～⑥のうちから一つ選べ。

Ⅰ：源義仲が、源範頼・義経に滅ぼされた。

Ⅱ：平氏が、安徳天皇を奉じて都落ちした。

Ⅲ：後白河上皇が、源頼朝に東海道・東山道の支配権を認めた。

- ① I — II — III      ② I — III — II  
③ II — I — III      ④ II — III — I  
⑤ III — I — II      ⑥ III — II — I

問2 下線部①の寛喜の大飢饉で、鎌倉幕府はある法を出し、具体的な対策を取った。以下の史料は、1239年に出されたもので、飢饉が沈静した時期に様々な問題が生じた結果、飢饉時に出した法の修正に関する方針を示したものである。以下の史料から読み取ることのできる内容を記した文章X・Yの正誤の組合せとして正しいものを、下の①～④のうちから一つ選べ。なお、史料は一部省略したり、書き改めたりしたところもある。

69

一つ、人倫<sup>じんりん</sup>売買<sup>ばい</sup>（注1）の事、禁制<sup>しんせい</sup>これ重し。而<sup>しか</sup>るに飢饉<sup>きこう</sup>の比<sup>ひ</sup>、或いは妻子<sup>けん</sup>・眷属<sup>けんじゆく</sup>を沽却<sup>こきやく</sup>（注2）して、身命<sup>みんめい</sup>を助け、或いは身を富徳<sup>ふとく</sup>の家に容れ置き、世路<sup>せろ</sup>を渡るの間<sup>のま</sup>（注3）、寛宥<sup>かんゆう</sup>の儀<sup>ぎ</sup>に就<sup>つ</sup>き、自然<sup>じねん</sup>沙汰<sup>さた</sup>無<sup>む</sup>き（注4）の処<sup>ところ</sup>、近年<sup>こうおつにん</sup>甲乙人<sup>けいおつにん</sup>（注5）等面々<sup>どうめんめん</sup>訴訟<sup>しゆじ</sup>し、成敗<sup>せいばい</sup>に煩<sup>わづら</sup>い有り。所詮<sup>（1229～1232）</sup>寛喜<sup>（1239）</sup>以後<sup>（1239）</sup>、延応元年<sup>（1239）</sup>四月<sup>（1239）</sup>以前の事<sup>（1239）</sup>においては、訴論人<sup>そろんにん</sup>（注6）とも<sup>もつ</sup>以て京都<sup>きょうと</sup>の輩<sup>ともがら</sup>（注7）たらば、武士<sup>くしゆう</sup>の口入<sup>くちゆう</sup>にあ<sup>あた</sup>た能<sup>あた</sup>わず。関東<sup>くわんとう</sup>御家人<sup>ごけにん</sup>、京都<sup>きょうと</sup>の族<sup>やから</sup>と相論<sup>さうろん</sup>の事<sup>こと</sup>に至<sup>いた</sup>りては、当家<sup>とうけ</sup>定め置<sup>お</sup>かれるの旨<sup>めい</sup>に任<sup>まか</sup>せ、下知<sup>およ</sup>せらるべし。凡<sup>およ</sup>そ自今<sup>おの</sup>以後<sup>のち</sup>、一向<sup>ちゆうじ</sup>売買<sup>ばい</sup>を停止<sup>ていじ</sup>せらるべきの状<sup>じやう</sup>、仰<sup>おほ</sup>せに依<sup>よ</sup>って執達<sup>しつたつ</sup>くだんの如<sup>ごと</sup>し。

延応元年五月一日

（北条泰時）  
前武藏守判（注8）

（北条時房）  
修理権大夫判

（北条重時）  
相模守殿

（北条時盛）  
越後守殿

（鎌倉幕府追加法 114）

- （注1）人倫売買：人身売買。
- （注2）沽却：売却と同じ。その前の「眷属」は親族を指す。
- （注3）世路を渡るの間：世間を渡っていくものなので。
- （注4）自然沙汰無き：ここでは、おのずから是非を論じてこなかったの意。
- （注5）甲乙人：誰と限らずすべての人。様々な人。
- （注6）訴論人：訴人は訴えた人（原告）、論人は訴えられた人（被告）。
- （注7）京都の輩（族）：西日本を中心とした、朝廷管轄の人々を指す。

(注8) 前武蔵守 判：「前武蔵守」は、執権北条泰時。「判」は文書原本には花押があったことを示す。連名している「修理権大夫」は副執権である連署、宛先の二人は六波羅探題の地位にあった。

X：鎌倉幕府は、飢饉に襲われた際の民衆について、妻子を富裕な人に買い取ってもらうなどして、生き残りを図るものと考えており、寛喜の大飢饉が起きている間は、人身売買を処罰の対象から外していた。

Y：延応元年5月までの間に、訴訟が殺到し裁判に支障をきたしたため、鎌倉幕府は朝廷が管轄する人々の訴えにのみ応じることとした。

- ① X — 正      Y — 正                  ② X — 正      Y — 誤  
③ X — 誤      Y — 正                  ④ X — 誤      Y — 誤

問3  に入る法令集の名称として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 『公事方御定書』                  ② 『令義解』  
③ 『建武式目』                      ④ 『貞永式目』

問4  に入る北条得宗家の人名Xと、その人物が鎌倉に創建した寺院名Yの組合せとして正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① X — 北条時頼      Y — 建仁寺  
② X — 北条時頼      Y — 建長寺  
③ X — 北条時宗      Y — 建仁寺  
④ X — 北条時宗      Y — 建長寺

B 室町時代に入っても、<sup>c</sup>1390～93年の明德の飢饉、1420～22年の<sup>d</sup>応永の大飢饉と、干ばつを要因とした飢饉が相次いで起きている。興味深いのは、生産地である農村のほうが、都市部よりも飢饉が深刻であること、飢えた民衆が食糧を求めて京都に押し寄せる動きをみせた点である。このことから、生産物が京都や奈良の荘園領主のもとに年貢として納められただけでなく、米価高騰を狙って、農村から食糧を買い集め、都市部で売却する者が多かったと考えられている。その担い手は商人だけではなく、農民自身でもあったようだ。この頃の農村は、年貢を銭で支払うことを認めた **ウ** をきっかけに、貨幣経済が浸透し、投機的な売買も行われるようになっていた。

<sup>e</sup>飢えた人々は様々な方法で、食糧を確保しようと図ったが、高騰する食糧を購入しようとすれば、借金が嵩むことは当然といえる。

1459～61年に起きた長祿・寛正の飢饉後、まもなくして京都では **エ** が勃発し、戦乱が拡大して流通網も打撃を受けた。**エ** で幕府の力が衰えると、全国各地で恒常的に戦争が起きるようになる。16世紀前半に、飢饉が頻繁に起きている原因は、天災だけでなく、戦争が関わっていると考えられる。

問5 下線部<sup>c</sup>に関連して、この時期に起きた出来事を説明した文章X・Yの正誤の組合せとして正しいものを、下の①～④のうちから一つ選べ。 **72**

X：南朝後小松天皇が入京し、北朝後亀山天皇の正統性を認めたことで、南北朝の合一が成立した。

Y：山名氏清が反乱を起こしたが、足利義満によって鎮圧された。

- ① X — 正      Y — 正                      ② X — 正      Y — 誤  
③ X — 誤      Y — 正                      ④ X — 誤      Y — 誤

問6 下線部④に関連して、応永年間頃の文化として誤っているものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 73

- ① 世阿弥が『風姿花伝』を著した。
- ② 如拙が「瓢鮎図」を描いた。
- ③ 絶海中津が漢詩文を詠んだ。
- ④ 足利義満が、書院造の原型となる建物を築いた。

問7 ウ・エ それぞれに入る語句の組合せとして正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 74

- ① ウー代銭納      エー享徳の乱
- ② ウー代銭納      エー応仁の乱
- ③ ウー分一銭      エー享徳の乱
- ④ ウー分一銭      エー応仁の乱

問8 下線部㉔に関連して、以下の史料は、甲斐国（山梨県）の河口湖付近の日蓮宗寺院の僧侶が書いた記録の一部である。この史料から読み取ることのできる内容を記した文章X・Yの正誤の組合せとして正しいものを、下の①～④のうちから一つ選べ。なお、史料原文は漢字・カタカナ交じり文で書かれているが、全体を漢字仮名交じり文に直して言葉を補うなど、書き改めた。

75

〔史料〕

<sup>(1550)</sup>  
天文十九年庚戌

（前略）六月より大雨降り候て、水出で候。七月・八月大雨、大風吹き候て、世間（注1）餓死候こと限り無し。（後略）

<sup>(1551)</sup>  
天文廿年辛亥

この年の春中、去年の餓死に、人詰まる（注2）事、言語道断申すばかりも無し。人の飢え死ぬる事限り無し。蕨<sup>わらび</sup>を<sup>(二)</sup>式月よりして、五月まで掘り申し候。大概、蕨にて物を作り申し候（注3）。大麦は<sup>にじゅうぶん</sup>廿分に（注4）能く御座候へども、春の詰まりが打ち続き候間、（略）六升を（錢百文で）売り申し候（注5）。小麦は三升を十文づつ売り買い申し候。（後略）

（『勝山記』）

〔注1〕世間：「世の中」と同じ。

〔注2〕詰まる：景気が悪くなって、生計が困窮・欠乏すること。

〔注3〕物を作り申し候：食べ物を作ったの意。

〔注4〕廿分に：「十分に」と同じ。

〔注5〕六升を…売り申し候：「売り申し候」とあるが、ここでは買い値を示す。

1548年に作物全体が豊作であった時は、錢100文（約1万円）で大麦1斗（10升）が買えたと記録されているから、この年は豊作なのに価格が下がっていないことがわかる。

X：庶民にとって、山菜の蕨が非常食として重要であった。

Y：麦の収穫時期は、旧暦の夏（4～6月）であったと考えられる。

① X — 正      Y — 正                      ② X — 正      Y — 誤

③ X — 誤      Y — 正                      ④ X — 誤      Y — 誤

**第4問** 城下町の歴史について記した文章A・Bを読み、下の問い（問1～8）の答えを解答欄に記入せよ。

A 中世段階では、守護所を初めとする有力武士の居館と、町場はある程度離れていることが多く、寺院を中心に町並みが形成されることが多かった。しかし戦国時代になると、戦国大名たちが城下町を形成するようになる。

室町期守護所からの発展事例としては、駿河今川氏の<sup>a</sup>駿府（駿河府中）、周防大内氏の山口が知られる。越前朝倉氏や甲斐武田氏は、それまでの守護所・国府とは別に、新たな本拠を構え、同地に城下町を築いた。

相模北条氏の築いた小田原は、<sup>そうがまえ</sup>総構（惣構）が設けられ、城下町全体が堀と城壁に覆われ、城郭と一体化していった点に特徴がある。これは中国やヨーロッパの都市では一般的なもので、何も北条氏独自の発想ではない。そもそも寺院のほうが歴史が古く、特に<sup>b</sup>浄土真宗本願寺派の主要寺院は、土塁や堀で防御を固めた寺内町をしばしば形成したが、これは真言宗の東寺や法華宗の本圀寺も同様である。これらの寺院に共通するものとして、戦争の危険にさらされていたことを指摘できる。都市部も同様で、都においても、上京・下京にはそれぞれ総構が築かれていた。<sup>c</sup>著名な自治都市についても、宣教師が「市街には<sup>ことごと</sup>悉く門ありて番人を付し、<sup>ふんじょう</sup>紛擾あれば之を閉づる」「町は甚だ<sup>けんこ</sup>堅固にして、西方は海を以て、又他の側は深き堀を以て囲まれ、常に水充滿せり」（「ガスバル・ヴィレラ書翰」『異国叢書』所収）と記すなど、堀で囲まれていたことが確認できる。

織田信長の安土城の総構は、こうした寺院系・自治都市系の総構の影響を受けていたと考えられている。その後の豊臣秀吉の<sup>d</sup>大坂城は、全国の技術の集大成という形で総構を整えていったとみられる。このように戦国後期、安土桃山時代になると、城下町が総構の中に置かれた事例は少なくない。

問1 下線部㉓に関連して、駿府について記した文章として誤っているものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 76

- ① この地を本拠とした今川氏は、分国法『今川仮名目録』を制定した。
- ② この地を本拠とした今川義元は、桶狭間の戦いで織田信長に敗れた。
- ③ 徳川家康は将軍職を退いた後も、この地で大御所として政治に関与した。
- ④ 江戸時代、駿府町奉行が置かれ、関東取締出役のもとで民政を管理した。

問2 下線部㉔に関連して、寺内町が形成された町の名前として誤っているものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 77

- ① 吉崎
- ② 坂本
- ③ 山科
- ④ 富田林

問3 下線部㉕に関連して、同地出身の商人で、豊臣秀吉に仕えた人物として誤っているものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 78

- ① 千利休
- ② 津田宗及
- ③ 小西隆佐
- ④ 島井宗室

問4 下線部㉖に関連して、大坂城について記した文章として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 79

- ① 豊臣（羽柴）秀吉が、延暦寺の跡地に築いた。
- ② 聚楽第・名護屋城とともに、天下人となった豊臣秀吉の本拠であった。
- ③ 江戸幕府は、西国大名の監視などの目的で、大坂城代を置いた。
- ④ 大坂冬の陣で、豊臣秀次が滅ぼされた際に落城した。

B 織田信長が占領した国々で城割しろわりを行い、降伏した有力者の居城はきやくを破却（破壊）させたため、織田・豊臣政権に従う国々の城郭はだんだん少なくなっていった。この延長線上にあるのが、1615年に江戸幕府が出した一国一城令で、大名は基本的に居城以外の城を破却した。こうした流れを受け、武士達は城下町に集住するようになっていく。

徳川家康の時代、江戸の城下町は、低湿地帯を埋め立てて居住地を拡大していった。その際、用水路が拡張されてできた川に架けられたのが 日本橋 <sup>e</sup> である。そうした埋め立て地を含む形で、武家地・寺社地・町人地 <sup>f</sup> などが形成されていった。

しかし江戸の城下町は密集しすぎており、1657年の 明暦の大火 <sup>g</sup> により、甚大な損害を出した。幕府は將軍徳川家綱の叔父保科正之の助言もあり、焼失した江戸城天守閣の再建を中止し、江戸の町の復興に注力した。その際には、火事に対する防災を意識した町づくりがなされ、江戸の町は大きく構造を変えることとなった。

しかしその後も江戸は頻繁に繰り返し火災に襲われた。このため、享保の改革を行った徳川吉宗のもとで 江戸町奉行を務めた大岡忠相は、さらなる防火対策を推し進めた <sup>h</sup> のである。

問5 下線部<sup>e</sup>に関連して、江戸日本橋について説明した文章X・Yの正誤の組合せとして正しいものを、下の①～④のうちから一つ選べ。 80

X：上方最大の魚市場として栄えた。

Y：東海道・東山道などからなる五街道の起点となった。

- ① X — 正      Y — 正                  ② X — 正      Y — 誤  
③ X — 誤      Y — 正                  ④ X — 誤      Y — 誤

問6 下線部㉑に関連して、江戸時代前期の町人地に関して説明した文章として誤っているものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 81

- ① 町人の代表である町役人は、名主（町名主）・町年寄・月行事などと呼ばれた。
- ② 道路の修理や防災といった都市機能の維持を、共同体である町で請け負い、税としては地子が課せられた。
- ③ 家持ちの町人と、土地や家屋を借りている人々で構成されており、全員で町の自治を運営した。
- ④ 町屋敷のうち、居住空間は、道路側ではなく屋敷の裏側に配置されることが多かった。

問7 下線部㉒に関連して、明暦の大火で多くが焼失した江戸の復興に始まる幕府の財政難に対応するために、金の含有量（品位）を落として発行された小判の名称として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 82

- ① 元禄小判      ② 慶長小判      ③ 享保小判      ④ 正徳小判

問8 下線部㉓に関連して、大岡忠相の取った火事対策について記した文章X・Yの正誤の組合せとして正しいものを、下の①～④のうちから一つ選べ。

83

X：町人地を対象とする町火消の制度を作った。

Y：延焼を防ぐため、道幅にゆとりを持たせた広小路を増やした。

- ① X — 正      Y — 正      ② X — 正      Y — 誤
- ③ X — 誤      Y — 正      ④ X — 誤      Y — 誤

**第5問** 近代の要人殺害事件について記した文章A～Cを読み、下の問い（問1～8）の答えを解答欄に記入せよ。

A 幕末維新期の日本は、新たな国造りを目指して様々な議論が起こり、しばしばテロ・暗殺の形で政敵を排除することが横行していた。幕府の重鎮で暗殺された人物としては、大老<sup>Ⓐ</sup>井伊直弼が挙げられる。

明治政府についても、薩摩藩・長州藩出身者が政府・軍部の中枢を占めた上、政府に十分な財源がなかったこともあり、多くの士族（旧武士身分）は生活が困窮し、政府への不満を募らせた。明治初期の改革を主導した<sup>Ⓑ</sup>大久保利通は、藩閥政治を批判する不平士族によって暗殺された。一方で<sup>Ⓒ</sup>自由民権運動の中心人物となった板垣退助や、条約改正を進めた大隈重信もテロで負傷している。

<sup>Ⓓ</sup>日露戦争後、日本の保護国となった韓国の初代統監の地位についた伊藤博文も、1909年にハルビンで韓国人の民族主義者安重根に暗殺されている。伊藤の死後、明治政府はかえって韓国への圧力を強め、翌年に韓国を併合した。

問1 下線部<sup>Ⓐ</sup>の井伊直弼殺害事件の名称として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 

84
----

- ① 紀尾井坂の変      ② 桜田門外の変  
③ 蛤御門の変      ④ 坂下門外の変

問2 下線部<sup>Ⓑ</sup>に関連して、大久保利通の事績を述べた文章として誤っているものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 

85
----

- ① 岩倉使節団に同行し、欧米を歴訪した。  
② 征韓論争では、岩倉具視とともに、反対に回った。  
③ 初代工部卿に就任し、明治六年の政変後の政治を主導した。  
④ 木戸孝允・板垣退助と会談し、漸進的に立憲政体に向かうことに合意した。

問3 下線部㉓に関連して、板垣退助・大隈重信の事績を述べた文章として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 86

- ① 板垣退助は、自由党党首として愛知県で演説中にテロに遭い、負傷した。
- ② 板垣退助は、日本で初の政党内閣の総理大臣となった。
- ③ 大隈重信は、外務卿として緊縮財政路線を取り、大規模なデフレを巻き起こした。
- ④ 大隈重信は2度めの総理大臣在任時に、加藤高明を外務大臣に起用した。

問4 下線部㉔に関連して、日露戦争が始まった1904年から、明治時代が終わる1912年までの文学・美術界の動きとして正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 87

- ① 島崎藤村が、ロマン主義詩人として『若菜集』を発表した。
- ② 樋口一葉の『たけくらべ』が、『文学界』に掲載された。
- ③ ナショナリズムの風潮が高まり、日本画を重視する東京美術学校が設立された。
- ④ 展示会で青木繁の「海の幸」が注目を集めるなど、外光派の白馬会が活動した。

B 大正時代においては、1921年11月に立憲政友会の原敬首相が東京駅で刺殺された。原は同年2月に、親しい政治家・実業家から暗殺計画について警告を受けていたが、自分を格別に憎む者などいないだろうと相手にしていなかった（『原敬日記』）。ただ、原敬は組閣当時「平民宰相」として国民的人気を得ていたものの、⑥ 多くの難題に直面し、当初ほどの支持を失っていた点を見落としていたのかもしれない。

昭和に入ると、政友会と二大政党制を形成していた立憲民政党の浜口雄幸首相は、その風貌から「ライオン宰相」と親しまれていたが、⑦ 経済・外交政策で非難を浴び、1930年11月に同じく東京駅で銃撃を受けた。浜口は一命を取り留め、翌日幣原喜重郎外務大臣が臨時代理として内閣を引き継ぐが、翌1931年4月に総辞職し、8月に死去した。後任首相には、同じ立憲民政党の若槻礼次郎が就任し、第2次内閣を形成した。なお第1次若槻内閣に際し、浜口は大蔵大臣、内務大臣という要職を歴任していたという関係にあった。

若槻首相の任命経緯について、木戸幸一が鈴木貫太郎侍従長から聞いた話を日記に詳しく書き記している。それは木戸が1930年から36年まで内大臣秘書官長の任にあったためであった。⑧ 木戸は浜口首相銃撃事件以後、多くのテロ未遂や暗殺・クーデターに遭遇したと、後に回想することになる。

問5 下線部⑧に関連して、原内閣が直面していた政治課題について記した文章として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 

88
----

- ① 選挙権の国税納税資格を完全に撤廃し、男性普通選挙法を導入したが、参政権を求める女性から強い反発を受けていた。
- ② シベリア出兵に伴う米の買い占めで米価高騰が起こり、それに反発する米騒動が全国的に広まって、退陣を迫られていた。
- ③ 第一次世界大戦中の好景気の反動による金融恐慌が起きていたが、上手く対処することができていなかった。
- ④ 立憲政友会の党員が汚職事件を相次いで起こし、政治の腐敗への批判が高まっていた。

問6 下線部㉑に関連して、浜口内閣が批判を受けた経済・外交政策について説明した文章X・Yの正誤の組合せとして正しいものを、下の①～④のうちから一つ選べ。 89

X：銀本位制に復帰するため、銀の輸出を解禁したが、為替レートを輸出禁止前のものに定めて実態と乖離した上、世界大恐慌と重なって輸出に不利に働いた。

Y：海軍軍令部の反対を押し切る形で、ロンドン海軍軍縮条約を締結したため、統帥権の干犯という批判を受けた。

- ① X — 正    Y — 正                      ② X — 正    Y — 誤  
③ X — 誤    Y — 正                      ④ X — 誤    Y — 誤

問7 下線部㉒に関連して、昭和初期に起きたテロや暗殺・クーデターで殺害された人物として誤っているものを、次の①～⑥のうちから一つ選べ。 90

- ① 井上準之助                      ② 斎藤実                      ③ 高橋是清  
④ 犬養毅                          ⑤ 永田鉄山                      ⑥ 岡田啓介

C 以下の史料は、木戸幸一の日記から、浜口内閣総辞職後、若槻礼次郎が後継首相に選ばれた経緯を記した部分を抜粋したものである。なお、史料は一部省略したり、書き改めたりしたところもある。

## 〔史料〕

(1931)  
四月十四日(火)晴(略)

鈴木侍従長(貴太郎)より、昨日、聖旨(注1)を奉じ、興津(おきつ)に於ける西園寺公爵(公望)に御下問(もん)の、浜口総理大臣以下閣僚の辞表捧呈ありたるにつき、其の後継内閣組織に関する件(じきよく)(時局に関する件)の元老の奉答を報告するところあり。(略)

公爵(西園寺)は先づ、財政経済に対する御宸念(しんねん)(注2)の意味を問はれし故(ゆえ)、侍従長は之を説明す。公爵は然らば財政経済に関し御安心ある人を推挙すれば宜しかるべしと云はれ、然らば茲(ここ)に奉答申し上ぐべし、浜口内閣総辞職の後継者として(礼次郎)は、若槻男爵こそ然るべしと奉答す。

尚(なお)、右奉答の理由を大要左の如く述べられたり。

時局の動揺以来、自分の手許には多数の意見情報が来て居る。中には中間内閣説も相当あったが、中間内閣(ついで)に就ては、今日所謂政党内閣の成立する時代に於て、みだりに之を成立せしむるは、却(かえ)って政界を混乱(おとし)に陥(おそれ)るの虞あり。非常時に於て、始めて実現せらるべきものと思ふ。尚、中間内閣の首班たるべき適当なる人物もなしと思ふ故、之は採らず。

又、政友会内閣説もありたれども、(一)政友会は今日未だ人心を得たりとも認められず。(二)殊(こと)に(注3)同会の唱ふる政策中には、今日の財界・経済界の实情に鑑(かん)み、余程考慮を要すべきものあり。(浜口内閣)(略)現内閣の施政中は面白からざるものもなきにしもあらざるも、未だ其の政策は行き詰れりと云ふにもあらず。

殊に浜口総理大臣の辞職は病気とは云へ、其の原因は政治的の意味を含む暗殺にして、之が原因となり、総辞職を為すが如きは、暗殺を奨励するが如き結果ともなり、由々敷(ゆゆしき)ことなりと思ふ。彼是熟考して、今日の場合、民政党の総裁たる若槻男爵に組閣の大命降下(たいめいこうか)(注4)あること、最も然るべきと考えたる次第なりと云々。

十時半，若槻男爵<sup>さんだい</sup>参内。陛下<sup>はいえつ</sup>に拝謁し，大命を拝受す。(後略)

(『木戸幸一日記』)

(注1) 聖旨：天皇の考え，命令。

(注2) 宸念：天皇の考え。

(注3) 殊に：とりわけ。その上，しかも。

(注4) 大命降下：明治憲法下で，内閣組閣の勅命が下ること。なお大命は天皇の勅命を指す。

問8 史料から読み取ることのできる内容について記した文章として正しいものを，

次の①～④のうちから一つ選べ。 

91
----

- ① 総理大臣は，天皇が独断で決めるものではなく，侍従長の推薦を受けた人物を指名するものであった。
- ② 西園寺公望が現在は相応しくないと述べている「中間内閣」は，政党政治家が首相となる内閣を指している。
- ③ 西園寺公望は，暗殺未遂事件が原因での政権交替は悪い先例を残すと述べている。
- ④ 西園寺公望は，二大政党制の存続が望ましいとし，その理由として憲政の常道を挙げている。

**第6問** 昭和時代の日中関係史について概観した文章A・Bを読み、下の問い（問1～9）の答えを解答欄に記入せよ。

A 1932年9月に満州国を承認した日本政府は、それ以上の戦線拡大を望まなかったが、<sup>a</sup> 関東軍を中心とした現地陸軍は、満州国周辺地域も支配下に置くことで、満州国の防衛体制を固めようと考えていた。かつて板垣征四郎とともに満州事変を起こした **ア** は、この時期参謀本部に在籍しており、関東軍を諫めようと試みたが、抑止することはできなかった。それでも **ア** は、不用意な中国軍との衝突を戒めていたが、1937年7月7日に勃発した盧溝橋事件をきっかけに、日中戦争が勃発した。

<sup>b</sup> 日本軍は12月には中華民国国民政府の首都南京を制圧した。しかし国民政府は、漢口を経て、重慶に退いて抵抗を続けたため、日中戦争は陸軍の予想を超えて長期化した。

この間、ドイツや日中の要人による和平工作が幾度も試みられたが、双方が強気の姿勢を崩さず、和解は進展しなかった。日本側は首都南京攻略で自信を深めていたのに対し、<sup>c</sup> 中華民国国民党の蒋介石も、対立していた共産党毛沢東と統一戦線を結ぶことに成功したためである。

日中両国は、盧溝橋事件当時の総理大臣 **イ** が、「国民政府を相手とせず」と声明を出すなど、対立はかえって深まった。<sup>d</sup> 日中戦争は泥沼の一途をたどり、戦闘は太平洋戦争終結まで継続したのである。

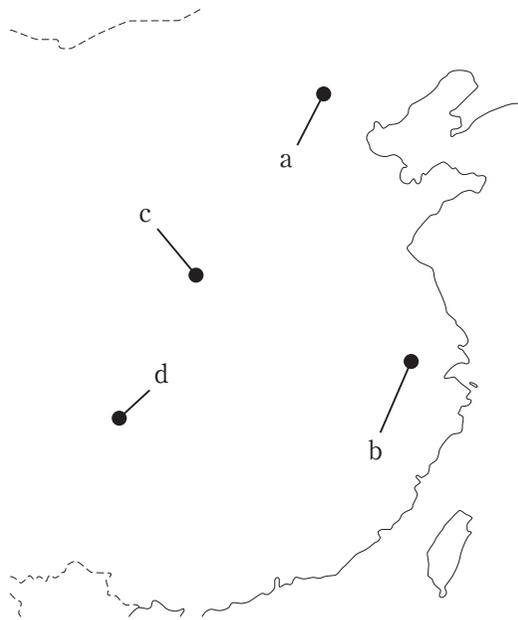
問1 下線部<sup>a</sup>で述べられている、関東軍らの動向の名称として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 **92**

- ① 東亜新秩序声明
- ② 北支事変
- ③ 新体制運動
- ④ 華北分離工作

問2 に入る軍人とに入る総理大臣の組合せとして正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① アー石原莞爾      イー米内光政
- ② アー石原莞爾      イー近衛文磨
- ③ アー河本大作      イー米内光政
- ④ アー河本大作      イー近衛文磨

問3 下線部⑥に関連して，南京と重慶の概略地図上の位置（a～d）の組合せと  
 してもっとも適切なものを，下の①～④のうちから一つ選べ。 94



（中国大陸概略地図）

- |   |        |        |   |        |        |
|---|--------|--------|---|--------|--------|
| ① | 南京 — a | 重慶 — c | ② | 南京 — a | 重慶 — d |
| ③ | 南京 — b | 重慶 — c | ④ | 南京 — b | 重慶 — d |

問4 下線部㉓に関連して、日中戦争期の蒋介石国民党と毛沢東共産党の提携に関して述べた文章として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

95

- ① 張学良は、毛沢東を軟禁し、国民党との提携を約束させた。
- ② 第1次国共合作が成立し、蒋介石が主導権を確立した。
- ③ 西安事件の結果成立した国共合作で、抗日民族統一戦線が形成された。
- ④ 蒋介石は国共合作を受け入れ、冀東防共自治政府を廃止した。

問5 下線部㉔に関連して、日本政府・軍部が中国を屈服させようとした政策・軍事行動について記した文章X・Yの正誤の組合せとして正しいものを、下の①～④のうちから一つ選べ。

96

X：南京に、汪兆銘を首班とする中国傀儡政権を作った。

Y：友好国ドイツとの同盟交渉を進めるとともに、ドイツに屈服したフランスの植民地である北部仏印進駐を行った。

- ① X — 正      Y — 正                  ② X — 正      Y — 誤
- ③ X — 誤      Y — 正                  ④ X — 誤      Y — 誤

B 1945年の太平洋戦争終結後、日本は事実上アメリカの単独占領下に置かれ、連合国最高司令官総司令部（GHQ）の勧告のもと、政府の存続は認められた。陸・海軍は解体され、日本は軍備を失った。

占領下において、長期にわたって政権を担ったのは、自由党の吉田茂である。吉田内閣を中心とする日本政府が直面した最大の課題は、戦時中から続く食糧難の解決と経済復興であったといえる。

日本を取り巻く国際情勢は目まぐるしく変化し、アメリカを中心とする自由主義・資本主義陣営（西側諸国）と、ソヴィエト連邦（ソ連）を中心とする社会主義・共産主義陣営（東側諸国）の対立が強まっていった。中国大陸では、毛沢東率いる共産党が、蔣介石の国民党との内戦に勝利し、1949年に中華人民共和国（以下、中国）を樹立した。敗北した蔣介石は、台湾に逃れて中華民国の存続を宣言することとなる。この前年には、朝鮮半島に朝鮮民主主義人民共和国と大韓民国が成立し、東西冷戦は、アジアにも大きな影響を及ぼしていた。

1950年に勃発した朝鮮戦争には、アメリカを中心とする国連軍が韓国側で、中国軍が北朝鮮を支援する形で参戦し、国連軍最高司令官を兼ねたマッカーサーは、<sup>e</sup> 日本に再軍備を要求した。吉田首相はこの状況を逆用し、1951年に西側諸国とのみ講和する形で独立を成し遂げた。当然、講和先にはソ連と中国は含まれていないが、それは台湾の中華民国国民党政府も同様であった。

日中の国交回復は、まず国際連合加盟を認められていた中華民国との間で、1952年に ウ が結ばれた。しかし1972年、アメリカのニクソン大統領が中国を電撃訪問し、1979年には米中国交正常化が成し遂げられた。これを受け、日本でも、1972年に田中角栄首相が訪中し、中国 エ 首相との間で日中共同声明を発表し、国交正常化を果たした。ただし平和条約締結は先送りされ、また声明に従い、日本は台湾の中華民国との関係を民間交流に引き下げた。締結が約束されていた日中平和友好条約は、<sup>f</sup> 福田赳夫内閣の1978年に結実した。

問6 下線部㉔の要求を受け、吉田内閣が設立した組織名として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 97

- ① 自衛隊      ② 保安隊      ③ 警察予備隊      ④ 国家警察

問7 ウに入る条約名として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 98

- ① 日台交流民間協定      ② 日華平和条約  
③ 日華関税協定      ④ 日中関税協定

問8 工に入る中華人民共和国の首相名として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 99

- ① 毛沢東      ② 江沢民      ③ 周恩来      ④ 段祺瑞

問9 下線部㉕の福田赳夫内閣の政策として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 100

- ① 第1次石油危機への対処にあたった。  
② 田中角栄内閣が金脈問題で総辞職した後を受け、クリーンな政治を掲げた。  
③ 財政安定のため、消費税を導入した。  
④ 内需拡大により、過剰な円高と欧米との貿易摩擦の解消を図った。